

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●吉田直弘調教師がJRA通算200勝を達成

7月7日(土)の2回函館1日・第2レースではククノローズが1着となり、同馬を管理する吉田直弘調教師(栗東)は、現役105人目となるJRA通算200勝(延べ2772頭目)を達成しました。

●川田将雅騎手がJRA通算1200勝を達成

7月8日(日)の3回中京4日・第8レースではヴァントシルムが1着となり、同馬に騎乗した川田将雅騎手(栗東・フリー)は、史上24人目、現役では12人目となるJRA通算1200勝(9204戦目)を達成しました。デビューから数えて14年4か月2日での1200勝達成で、これは武豊騎手の9年8か月9日に次ぐ2番目のスピード記録となります。

●オジュウチョウサンが障害GI馬として初の平地勝利を飾る

7月7日(土)の2回福島3日・第9レースとして行われた開成山特別では、J・G Iで5勝をあげているオジュウチョウサン(牡7歳/美浦・和田正一郎厩舎)が優勝、平地競走初勝利を飾りました。J・G I優勝馬による平地競走勝利は、ジャンプグレードが導入された1999年以降では初めてのこととなります。

●マテラスカイが中央競馬レコードタイムを更新

7月8日(日)の3回中京4日・第11レースとして行われたプロキオンS(G III)では、マテラスカイ(牡4歳/栗東・森秀行厩舎)が勝ちタイム1分20秒3(不良)で優勝しました。これは2012年コーラルSでインオラリオが記録した1分21秒5(不良)を更新する、3歳以上・ダート1400mの中央競馬レコードタイムとなります。

●ジャパンジョッキーズカップにJRAから4騎手が参加

7月16日(祝・月)に盛岡競馬場で行われる騎手招待レース「ジャパンジョッキーズカップ2018」に、JRAから内田博幸騎手(美浦・フリー)、戸崎圭太騎手(美浦・田島俊明厩舎)、福永祐一騎手(栗東・フリー)、クリストフルメール騎手(栗東・フリー)が参加します。このレースは、JRA、地方競馬・東日本地区、地方競馬・西日本地区の3チーム(各4名)による対抗戦で実施されます。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ルヴァンスレーヴがジャンパダートダービー(大井)を完勝

ジャンパダートダービー(Jpn I、3歳、7月11日、大井、2000m)は、12番手から大外を通過して追い上げたルヴァンスレーヴ(ミルコ・デム・ロ騎手、牡、父シンボリクリスエス)がゴール前100mで差し切り、1番人気に応えました。オメガパフュームが3番人気のグレートタイムを抑えて2着に入り、逃げたテーオーエナジーは5着、2番人気のドンフォルティスは6着、ハーベストムーンは9着、バイラは10着に敗れています。

●函館2歳Sに2頭の北海道所属馬が登録

函館2歳S(G III、7月22日、函館)には、北海道所属のJRA認定馬(上級認定競走1着馬)のエムティアン(牝、父パドトロワ)、レコードチェイサー(牝、父ディーブプリランテ)が出走の予定です。

●7月16日のマーキュリーC(盛岡)で連覇を目指すミツバ

マーキュリーC(Jpn III、7月16日、盛岡、2000m)は、昨年の覇者ミツバと、4連勝中のフェニックスマークの対決が見どころとなり、以下ザイディックメア、ヨシオ、マイネルバサラ、ドラゴンエアル(北海道)、エンパイアベガス(岩手)までが争奪圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1エクリプスS~ロアリングライオンがG1初制覇

7月7日に英サンダウン競馬場で行われたG1エクリプスS(芝9^フ209^フ)は単勝2.75倍の1番人気に推されたロアリングライオン(牡3歳、父キトゥンズジョイ)が後方待機から直線で鋭く伸びると、先に抜け出していたディーブインパクト産駒の日本産馬で、6月30日のG1愛ダービーからの連闘となったサクソソウォリアーを残り100^フ付近で交わしてクビ差で優勝。直線でロアリングライオンがサクソソウォリアーに何度かぶつかったことが審議になりましたが、入線順通りに確定しました。ロアリングライオンは、昨年デビューから3連勝でG2ロイヤルロッジS(芝8^フ)に優勝して、続くG1レーシングポストトロフィーはサクソソウォリアーの2着。3歳を迎えた今年はG3クレイヴンS3着、G1英2000ギニー5着(勝ち馬サクソソウォリアー)と来て、G2ダンテS(芝10^フ56^フ)で2つ目の重賞勝ち。続く前走のG1英ダービーは3着でした(サクソソウォリアーが4着)。管理するJ.ゴスデン調教師は、2012年ナサニエル、2015年ゴールデンホーンに続いてこのレース3勝目、手綱を取った22歳のO.マーフィー騎手はこれがイギリスでのG1初制覇となりました。